

**平成26年8月20日
広島市豪雨災害について**



広島市下水道局河川課

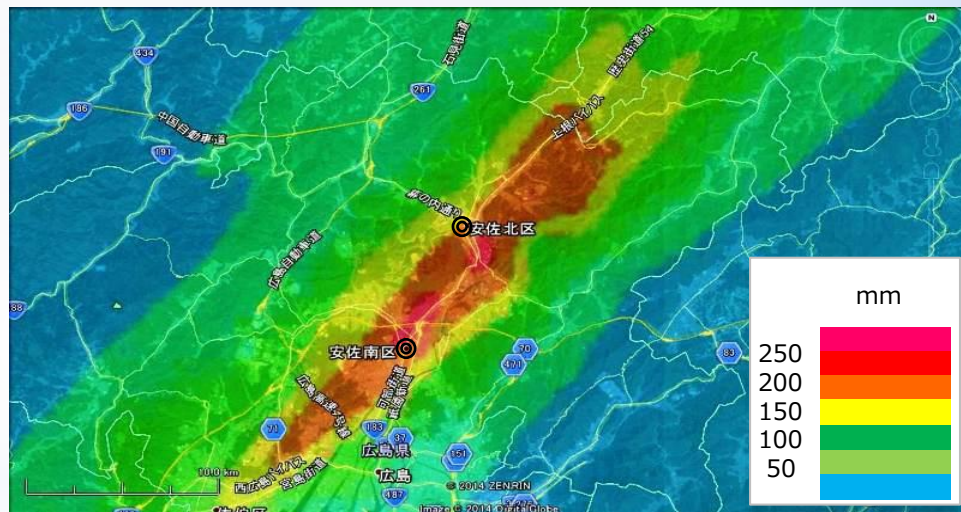


1. 気象概況

平成26年8月19日～20日

平成26年8月19日から20日にかけて、日本海に停滞する前線に向かい、南から暖かく湿った空気が流れ込み、広島県では大気の状態が非常に不安定となり、19日夜から20日明け方にかけて、広島市を中心に猛烈な豪雨（最大時間雨量115mm）となった。

この豪雨に伴い、広島市安佐北区及び安佐南区を中心に、土石流やがけ崩れ、流下能力以上の洪水や河岸浸食、河床洗掘による土砂流出などにより、甚大な被害が発生した。



独立行政法人 防災科学技術研究所出典

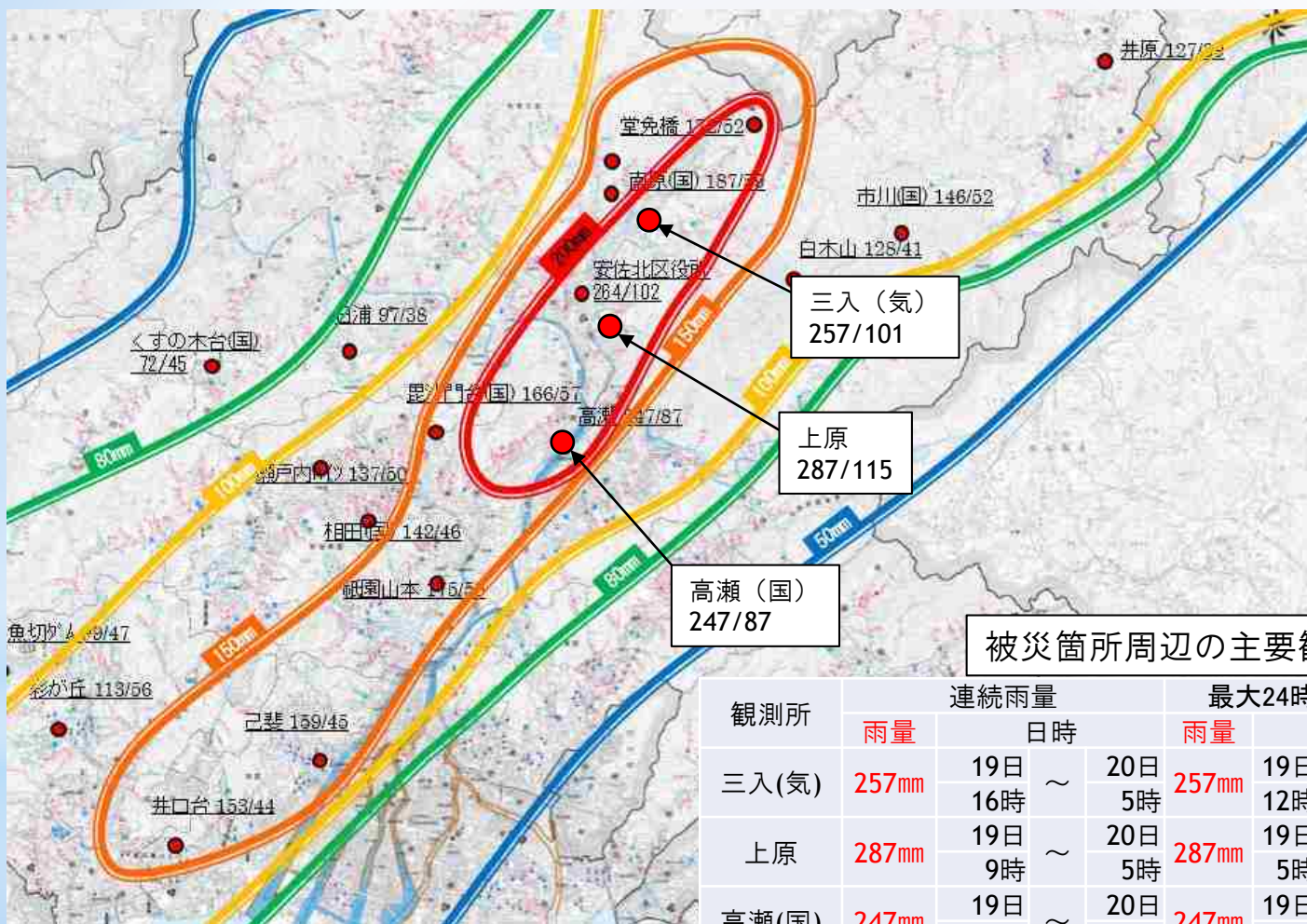
国土交通省のXRAIN (XバンドMPLレーダー) と気象庁Cバンドレーダー雨量の合成による8月19日18時から8月20日午前6時までの12時間積算雨量分布 (背景地図はGoogle Earth使用)。

1. 気象概況

平成26年8月19日～20日

降水量分布図

(平成26年8月19日～8月20日における最大24時間雨量 / 最大時間雨量) 単位mm



被災箇所周辺の主要観測所の降雨量

観測所	連続雨量			最大24時間雨量			最大時間雨量		
	雨量	日時	日時	雨量	日時	日時	雨量	日時	日時
三入(気)	257mm	19日 16時	20日 5時	257mm	19日 12時	20日 12時	101mm	20日 3時	20日 4時
上原	287mm	19日 9時	20日 5時	287mm	19日 5時	20日 5時	115mm	20日 3時	20日 4時
高瀬(国)	247mm	19日 18時	20日 4時	247mm	19日 4時	20日 4時	87mm	20日 2時	20日 3時

2. 被害状況

人的被害

死者	負傷者	計
77人	69人	146人

物的被害

全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	計
179 棟	217棟	189棟	1,084棟	3,080棟	4,749棟

公共土木施設被害

道路・橋梁	河川堤防	計
667 件	412 件	1,079 件

その他、電気・上下水道等のライフラインにも被害が発生

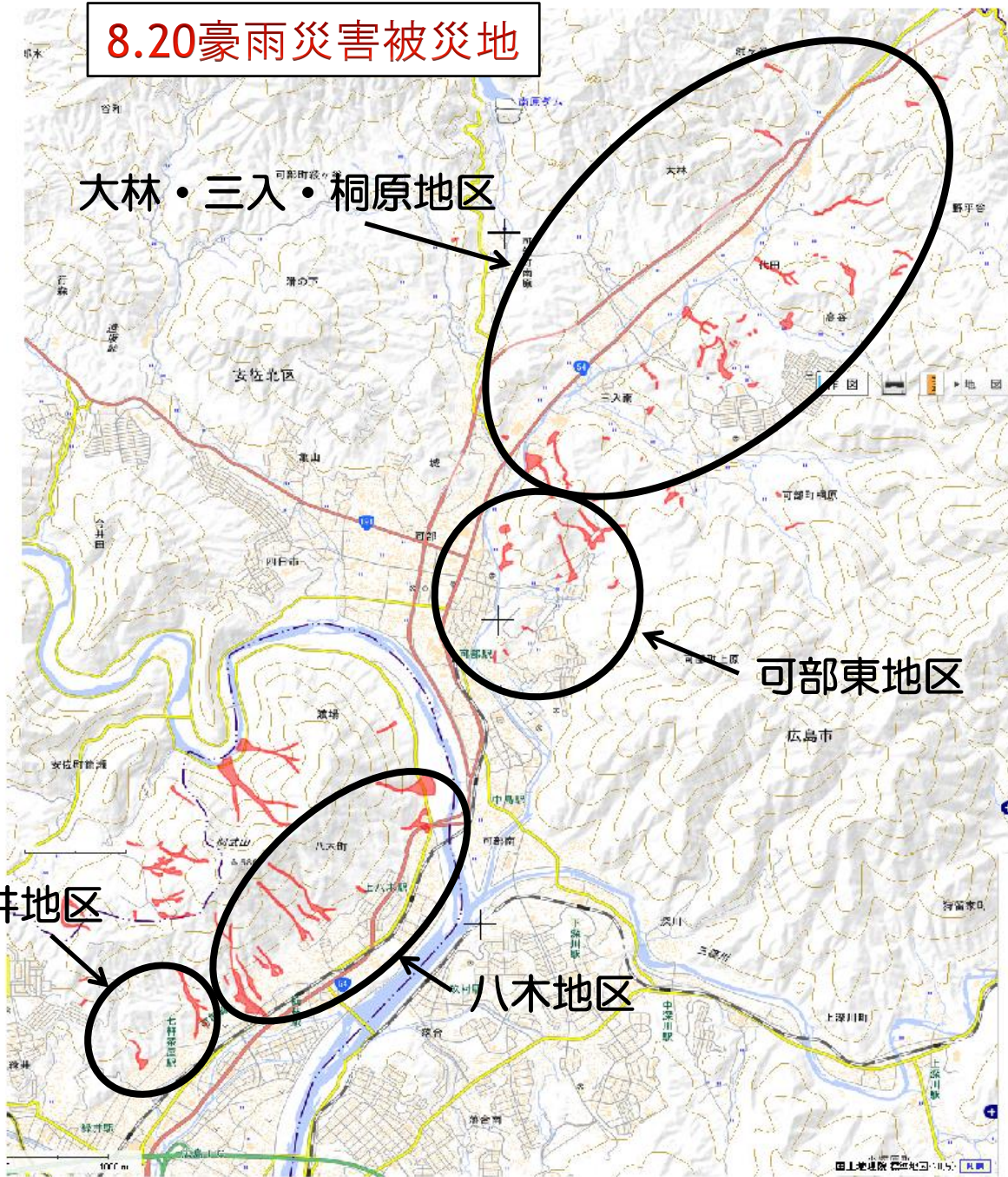
8.20豪雨災害被災地

大林・三入・桐原地区

可部東地区

緑井地区

八木地区



2. 被害状況 (1)

安佐南区八木・緑井地区



一般県道下佐東線



安佐南1区86号線



安佐南1区118号線



2. 被害状況 (2)

安佐北区可部東地区



安佐北区三入南・桐原地区



安佐北3区82号線



普通河川新建川



普通河川中応寺川



3. 公共土木施設災害査定状況

- 実施期間
平成26年10月28日～12月19日（第1次～第6次）
- 申請箇所数・申請額
総計138箇所、24億7,162万円
- 決定箇所数・決定額
総計139箇所、23億7,717万円

災害査定実施結果

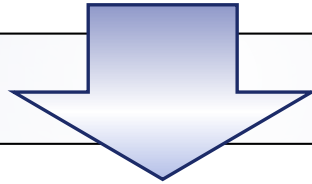
（単位：千円）

	申請		決定	
	箇所数	金額	箇所数	金額
河川	76	1,572,926	77	1,521,961
道路	53	756,398	53	712,913
橋りょう	2	26,307	2	26,307
下水道	7	115,991	7	115,991
総計	138	2,471,622	139	2,377,172

4. 発災直後の対応について

➤ 発災直後の問題点

- 市職員は地元住民の対応（通報対応、応急対策、避難所の運営、問合せ等）に追われ、被災現場を調査する人手が不足する
- 被災箇所の調査が進まない
 - ・ 土石流等により道路が通行できず、現地入りできない
 - ・ 遭難者の捜索・応急復旧を優先するため、調査ができない
 - ・ 調査コンサルタントの人員不足
 - ・ 市職員の技能不足



➤ 問題解決のための対応策

- 市内部から応援職員を集め、短期間で集中的に調査を実施
- 国・県等の協力を得て迅速な道路啓開を図る
- TEC-FORCEなどの支援を活用
- 市職員の技術力向上を図る

5. TEC-FORCEによる支援

➤ 実施期間

平成26年8月21日～8月28日

➤ 調査体制及び延べ調査人員

- 総合指令（河川・道路）＋被害状況調査班 120名
- 広報班 21名

調査範囲	対象	うち被災計上	被害報告金額
広島市安佐南区	河川；15河川 道路；126路線	河川；13河川21箇所 道路；52路線68箇所	727,285千円
広島市安佐北区	河川；4河川 道路；2路線	河川；4河川54箇所 道路；2路線10箇所	576,564千円

TEC-FORCEによる現地調査



5. TEC-FORCEによる支援

➤ TEC-FORCEの支援による効果

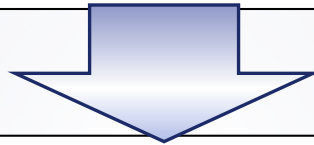
- 市役所職員が人員不足のなかで調査してもらったことで、被害の大きい河川や道路の状況把握や10日目災害報告、その後の災害査定に活用することができた。
- 応急対策や復旧工法の検討において、技術的な助言を多く頂き、査定時に大変役立った。
- 被災直後から早期に調査に着手したことで、地元住民の安心感につながった。
- 広島市では、近年大規模な災害が無かったため、TEC-FORCEの支援内容等について認識が十分でない部分があったが、今回の支援の経験を通じてTEC-FORCEの有効性を知ることができた。

など

6. 災害復旧事務研修の取り組み

▶ 災害復旧事務の実施に関して

- 広島市は大規模災害の発生頻度が低く、災害復旧事務の経験者が少ない
- 他の国庫補助事業等と比較して、特殊な事務手続きが多い
(被害報告、査定、設計変更、再調査、成功認定など)
- 定年退職職員・新規採用職員の増加を踏まえ、災害査定に関する知識・ノウハウの継承が課題



- 市職員を対象に災害復旧事務研修を定期的実施
 - ✓ 開催時期；6月中旬・9月中旬
 - ✓ 実施主体；（一社）広島県土木協会
 - ✓ 研修内容；災害復旧事業の概要、査定設計書作成事務など
 - ✓ 参加者；各区役所等の技術職員 計30名前後

6. 災害復旧事務研修の取り組み

➤ 参加者の感想

- 事務の流れを具体的にイメージできた。
- 基礎的な知識を身に付けることができた。
- あまり聞きなれない専門用語が多く、理解に苦勞した。
- より実践的な研修（現地調査、査定設計書の作成等）の実施も希望したい

➤ 今後の課題

- 実践的な研修の実施（災害の頻度が少ないため、実地研修が困難）

